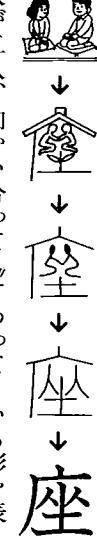


座

六年
画数 10
筆順 座
成り立ち
ワシ すわる

成り立ち



人が一人、向かい合つて、すわっている形を表した「坐」と、家の形を表した「广」とを組み合わせて作った字です。「家の中の「すわる」場所」を表した字です。【例】着座、座席、座右、上座。

人々が集まる所」という意味にも使います。【例】座談、座興、満座。

「坐(すわる)」という意味にも使います。【例】座禅(元は「坐禪」)。

また、「劇団」や「劇場」の意味にも使います。【例】座長、歌舞伎座。

〔坐が「すわる」の本字だが、常用漢字にないため座が「すわる」の意味に代用されるようになった。〕

済

六年
画数 11
筆順 江 浚 浚 济 济 济
オン サイ
クン すリむ

成り立ち



「りっぱにきちんと」と「ととのえる」という意味を表した「齊」と、川の意味を表した「済」とを組み合わせて作った字です。

「川の水をあふれさせて洪水にしないように、ととのえる」ことを表した字です。「水を治める」ことを表した字です。

昔の政治では、「水を『齊える』こと、つまり『治水』が一番大事な仕事でした。それで「政治」ということばかりあるのです。

人々を「救う」仕事なので、「救う」という意味に使われます。【例】救済、濟度、濟民、經濟。

また、「うまくすます(すむ)」という意味にも使われます。【例】完済、返済、弁済、未済。

使い方

▽わたしのおじいちゃんは、「克己心」という言葉を座右の銘としています。自分に勝てなければ、何事もなしとげられない、とおじいちゃんは、常に言います。おじいちゃんは若い頃には意志が弱かつたそうです。そういう自分の弱さに勝ちたいと思つて、「克己心」を座右の銘としたのだそうです。

▽ぼくのおとうさんは座談の名人です。知り合いの人でも、初対面の人でも、一緒に居合わせた人と、たちまち楽しくうちとけて話すのです。話す内容も面白くて、話に引き込まれてしまいます。

熟語例

▽着座(座席に着くこと。席に座ること。)

▽座右(座席のかたわら。「座右の銘」といえば、いつも身近に置いて、いましめとする言葉のことです。)

▽上座(位が上の人が座る場所。「ジョウザ」とも読みます。【例】「下座」(ゲザ))

▽座談(座って気楽に話し合うこと。)

▽座興(その場の興(おもしろみ)をそえる戯れ)

▽下座(ゲザ)

▽上座(カガサ)(位が上の人が座る場所。「ジョウザ」とも読みます。【例】「下座」(ゲザ))

▽座談(座って気楽に話し合うこと。)

▽座興(その場の興(おもしろみ)をそえる戯れ)

▽下座(ゲザ)

使い方

▽「経済」という言葉は、もともと「経世済民」といつて、世の中を治め民衆を救う、という意味の言葉から出たものです。ですから、「経済」というのは、国を經營し、国民の暮らしを助ける、という活動のことです。

▽ぼくは妹におこづかいを借りました。借りるといつても、妹のことだから返済の必要はないだろうと、たかをくくついたら、今日、返してちょうどだいと言われてしましました。

熟語例

▽救済(救うこと。とくに、苦しみ悩んでいる人を救うこと)を言います。「難民救済活動」など)

▽濟度(仏教で、迷い苦しんでいる人々を救い、正しい悟りの道に導くこと。)

▽濟民(民衆を救うこと。)

▽濟民(民衆を救うこと。)

▽經濟(「経世済民」から来た言葉ですが、今では人間が生活する上で必要な、生産・売買・消費をひつくる

めてさす言葉です。「経済的」といえば、費用や手間が、かからないことを言います。)

▽返済(借りを返すこと。)